

環境省御中

遺伝子組換えイネの第一種使用等に関する承認についての意見

生活協同組合パルシステム東京
理事長 野々山理恵子

私たちパルシステム東京は、「『食べもの』『地球環境』『人』を大切にした『社会』をつくります」を理念に、約46万の組合員が安心で安全な生活を願い活動をすすめている生活協同組合です。パルシステムでは生活者(消費者)の暮らしと健康を守るために、生産者とともに食べものの安全性にこだわり、産直運動をすすめ、日本の食料自給率向上を目指しています。遺伝子組換えイネの第一種使用等に関する承認について以下、要望いたします。

記

(1) 作物の遺伝子操作、特にイネの遺伝子操作に反対します

不確実性のある遺伝子工学技術によって作られる遺伝子組み換え作物などについて、想定外の有害物質やアレルゲン等の安全性のリスクと、野生生物や在来作物との交雑、殺虫成分や強力な除草剤使用による環境影響を私たち懸念します。作物の遺伝子の多様性は私たちの将来の食を守るもので、特定の強い除草剤を広範囲に散布する遺伝子組み換え作物の栽培法は農地周辺の生態系を破壊し、生物多様性を損ねるもので、想定外の遺伝子汚染が起これば将来に拭えない禍根を残します。私たちは、作物の遺伝子組み換え、その他の遺伝子操作に反対します。米は日本人の主食であり、他の作物に増して安全性の懸念と、米に対する安心の喪失、生産への影響が懸念されるので、イネの遺伝子操作には特に反対します。

(2) ゲノム編集作物の申請受付に反対します

私たちは現行の遺伝子組み換え作物の安全性評価(実質的同等性評価)や環境影響評価は不十分と考えますが、当品種は遺伝子組み換え技術とゲノム編集技術を用いていることから、遺伝子組み換え作物としての評価では不適切です。まして本品種は「CRISPR-Cas9」遺伝子を組み込むもので、遺伝子拡散の可能性があると考えます。遺伝子操作の結果が生態系や在来作物に対して想定外の回復不能な被害を与える可能性が否定できないと私たちは考えます。ゲノム編集技術のオフターゲット問題や遺伝子ドライブ技術の応用による遺伝子拡散、環境への影響等を考慮して、予防原則に基づいて慎重に対応してください。本件申請の却下を要望します。

以上